

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Parental educational level and childhood wheezing and asthma: a prospective cohort study from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

社会経済要因・住環境と児の喘息発症との関連

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLOS ONE

年: DOI:

筆頭著者名: 西條 泰明

所属UC名: 北海道ユニットセンター

目的:

母親と父親のそれぞれの教育歴を同時に考慮した場合の子供の喘息への影響については十分に検討されていない。本研究では母親と父親のそれぞれの教育歴の子供の喘鳴・喘息への影響について明らかにすることを目的としている。

方法:

環境省「エコチル調査」の参加者において、妊娠時の質問票より母親と父親のそれぞれの教育歴、子供の3歳時の調査票より喘鳴と医師の診断による喘息を調査した。粗解析(父親と母親の教育歴のみ説明変数として投入)と交絡要因を調整した多変量解析(ロジスティック回帰分析)により、母親と父親のそれぞれの教育歴、子供の3歳時の調査票より喘鳴と医師の診断へのオッズ比(OR)を算出した。

結果:

69,607組が解析対象。粗解析では、母・父親の教育歴が短いことが子供の喘鳴・喘息のORを上昇していた。多変量解析では、母親の教育歴が短いことが子供の喘息のORを上昇し(中学(参照カテゴリ: 高校); OR: 1.17), また母親の教育歴が長いことが子供の喘鳴をOR上昇し(短期大学・専門学校等; OR: 1.12, 大学・大学院; OR: 1.10), 子供の喘鳴も上昇していた(短期大学・専門学校等; OR: 1.13)。

考察:(研究の限界を含める)

単変量解析では、母・父親共に教育歴が短いことが子供の喘息・喘鳴リスクを上昇していたが、多変量解析では母親の教育歴が長いことがリスクを上昇していた。これは、喫煙や年齢などの交絡要因として調整した場合、母親の教育歴が長いことが男性よりも就業時のストレスにつながり、それが影響しているのかもしれない。本研究の限界としては、要因として把握したのが妊娠時の教育歴なので、その後、教育歴が変化している可能性や、調整因子として受動喫煙は考慮したが、大気汚染などの環境要因については調整しきれないことがあげられる。

結論:

単変量解析では、母親・父親の教育歴が短いことが子供の喘鳴、喘息に関連していた。しかしながら、交絡要因を調整した解析では、母親の教育歴が長いことが子供の喘鳴のリスクを上昇していた。